

開催地名：愛媛県今治市	
開催日時	令和4年10月18日(火) 13:50～15:30
開催場所	今治市立立花小学校
語り部	菅野 祥一郎 (岩手県陸前高田市)
参加者	小学校5年生児童 95人
開催経緯	第5学年は総合的な学習の時間に、「防災」について学習する。内容は、主に地域防災についてであるが、実際に震災を経験した人々の話を聞くことで、より身近な問題としてとらえることができ、学習の成果につながるものと考え、今回の講演会を実施する。
内容	<p>(1) はじめに</p> <p>私は岩手県の南、宮城県に接している陸前高田という地域に住んでいる。岩手県の太平洋側は、非常に入り組んだリアス式海岸なので、津波の高さが増すことで被害が大きくなった。既に東日本大震災から11年が経った。皆さんは5年生だから、この震災が起こった時にはまだ生まれていなかった人もいるはずだ。このように時間が経つにつれて、テレビ等で報道されることも少なくなってきた。露出が減ると、もう自然と人々は、災害のことを忘れていくような雰囲気がある。私は政治家でも研究者でもないのに、東日本大震災のことを皆さんにどの程度詳しくお話できるかわからないが、あの震災が起こった時、大津波が押し寄せてきた小学校の校長として、こんなことがあったのだという体験をお話したいと思う。</p> <p>(2) 津波被害の特徴</p> <p>津波災害には3つの特徴がある。1つ目は、一度に多くの命が奪われてしまうことである。東日本大震災で亡くなった方々は、ほとんどが津波で犠牲となられた。2つ目は、遺体が遠くに流されてしまうことだ。行方不明者が多いのはこのためだ。3つ目は、忘れられてしまうということだ。東日本大震災の前に三陸地方で被害を受けた「チリ地震津波」は、もう50年以上も前の出来事である。津波は、台風のように毎年やって来るわけではない。頻繁に来ないことはいいことだが、前回被害にあったときから間隔がかなりあいてしまうため、いつの間にかその怖さを忘れてしまうのである。</p> <p>(3) 命を守るとは</p> <p>地震が発生したときに所用で校外にいた私は、急いで学校に戻ろうとしたが、途中の橋が通行止めになってしまい、想定外の時間がかかってしまった。戻った時、子どもたちや近隣の住民は校庭に整列していたが、既に津波は川をさかのぼり始めており、時間の猶予はなかった。校舎に入った方がいいと言っている人も入れば、学校の裏に逃げようと言っている人もいたが、私は、隣の山の上に登るように指示した。校長の指示に従い、子どもたちも周りの大人たちもすぐに登り始めた。つい先ほどまで校門付近にいた数十人の人たちは、私たちのそばからいつのまにか消えてしまった。校舎に逃げた人たちは、屋上の貯水槽の上に登れた一人の方を除き、流されてしまった。市役所の前には、女の子が3人乗った家の屋根が流されてきたが、誰も助けることはできなかった。私の小学校の子どもたちが助かった理由は、住民の生死を分けたものは何なのか。それは、「誰よりも早く逃げることを決断したこと」に尽きると思う。</p>

(4) 避難所では

私たちの学校の子どもたちは全員が助かった。そして、何日か経つにつれて迎えに来る家族の人も増えた。いや、正確には迎えに来て帰る家がないのだから無事な確かめに来た、と言った方がいいのかもしれない。ある子には最後まで誰も迎えに来ることはなかった。その子がどんな思いで家族が来てくれるのを待っていたか、みなさん想像がつかろうか。本当に辛かったと思う。

このような状況の中で、信じられない人間もいた。遺体から財布の中身を盗む者たちだ。なぜこのようなことをするのか、目を疑った。皆さんは絶対このようなことをする人間にならないでほしい。

(5) 皆さんへのお願い

皆さんに、是非お願いしたいことがある。それは「命を大事にしてください」ということである。まずは自分の命を、そして隣人の命を。必死に逃げても力尽き、亡くなってしまった女の子がいる。どんなに怖かっただろうか。生きたくても、何の予告もなく人生を断ち切られてしまったのだ。人生には思いもよらないことが起こる。だから、今、この時を大切にして、生きていることの幸せをかみしめて、誰の命でも大切にする人になってもらいたい。

地震だけでなく、いろいろな災害が日本中で発生しているが、自分の命を守るために想像力を働かせて、日常生活の中で備えを進めてほしい。そして、気づき、考え、行動することを忘れずに、陸前高田の助かった子供たちのように、明るく前を向いて進んで行っていただきたい。



開催地より

東日本大震災の体験談と児童に対する避難誘導についてとともに、被災後の生活や災害時における命を守る考え方についてもお話を伺った。今後は、被災したときにどのように考えて行動して命を守るかという、思考型の防災学習を実施していくとともに、自助、共助の視点に立った自己と他者の命を守る防災学習を行ってきたい。